

平成23年度岡山県農林水産総合センター畜産研究所機関評価評価票（概要）

1 運営方針及び重点分野	非常に優れている 0人	優れている 4人	妥当 3人	見直しが必要 0人	全面的見直しが必要 0人
助言、指摘事項等 1. 県の研究施設として生産者への技術支援や県民ニーズへの対応にとどまらず、これからの循環型社会の実現を目指して環境負荷軽減を指向して今後の酪農家への支援を基盤として運営が行われている点が評価できる。継続的に実施している研究課題や事業の方向性に、高い意欲と改善への努力が感じられる。 2. 4つの柱、重点課題、重点事業など、明確な方針が示されており、研究所の意義と役割を理解しやすい。地域の産業を維持・発展させることが命題と思われるので、それらを示すことがより大きなアピールになると考える。 3. 運営方針及び重点分野は特に問題ないが、岡山県の特徴がはっきりみえてこない。 4. 重点分野に対応した課題はいずれも大きな内容を含んだものであり、限られた要員・予算の中で課題遂行するためには、ひとつひとつの大課題の中で、実施課題については年次計画の中でさらに優先順位と重点化が必要になるとと思われる。 5. 「基本的な4つの柱」については現状をとらえた非常に優れた方針と考える。「重点課題」においても注目すべき優れた設定であるが、研究に対して、成果の普及や技術指導について性格上一般的になり難いのは理解できなくもないが現場指導員への周知が充分でない。					
2 組織体制及び人員配置並びに予算配分	非常に優れている 0人	優れている 3人	妥当 4人	見直しが必要 0人	全面的見直しが必要 0人
助言、指摘事項等 1. 他分野の研究所との統合、内部組織の見直しなど、農業環境の変化に対して組織を見直しを進めていることは評価される。 2. 横断型の研究体制が志向され、より弾力的・効果的な試験研究の推進が期待されるが、スムーズな研究推進を図るためには、別途、家畜飼養業務などの基盤的業務体制の充実も大切な要素であるので、この点も十分配慮する必要がある。 3. 組織体制を横断的に再編したプラスの面とマイナスの面が現れている。限られた予算、人員体制で効率的に試験研究等に取り組みられている反面、相談窓口機能が低下しているという意見がある。立て直していただきたい。 4. 現業業務の見直しには混乱を招かないよう実態に即した対応が求められる。外部資金導入による特定財源の確保の面で努力しており、今後もさらに努力が望まれる。 5. 再編したばかりであり、組織体制と人員配置の評価を現段階で行うことは難しい。横断的な取り組みがしやすくなったというが、人員は減少しており、機動性が失われた可能性もある。技術相談のしやすさ、技術指導の受けやすさという点で、産業サイドがどのように評価しているか、研修会等の機会に把握していただきたい。 6. 次回の機関評価は3年後と間隔が長いので、現時点での組織改革の総括（功罪）を記載したほうが良い。 7. 多額の人件費に対して、直接の研究コストが見合うものであるか判断しかねている。将来的には”産学官”共同研究やその成果による特定財源の確保を拡大する事が重要と考えられる。					
3 施設・設備等	非常に優れている 1人	優れている 1人	妥当 5人	見直しが必要 0人	全面的見直しが必要 0人
助言、指摘事項等 1. 厳しい予算状況の中で、フリーストール、搾乳ロボット、熱画像装置など、畜産研究の発展にむけ、導入もしくは導入予定であることは高く評価される。 2. 施設の老朽化が進む中で、研究成果は着実に上がっており効率的に運用されていると判断できるが、限られた予算の有効活用の為にも試験研究テーマの設定は十分に検討してほしい。 3. 施設の集中整備後、相当年月がたっていること、あるいは研究高度化に伴う各種計測機器等の陳腐化スピードなどが速くなってきたことなどを考えると、試験研究の重点化に対応した計画的更新がより重要になってきていると思われる。 4. 特電事業による装置・機器・施設の整備は、研究課題に必要であると同時に、老朽化施設・機器の更新も計画的と言える。予算確保の面からも大きな役割と考えるが、一時的に良くて将来的には維持・管理の経費増でもあり、より長期的な計画性を必要とする。					
4 研究成果	非常に優れている 1人	優れている 4人	妥当 2人	見直しが必要 0人	全面的見直しが必要 0人

助言、指摘事項等

1. 「基本的な4つの柱」それぞれで優れた試験研究成果を上げ、しかも実用化を視野にいれてその成果の普及に力を入れており、取り組み全体としては非常に優れていると考える。
2. 昨今の畜産業界を揺るがしている口蹄疫や高病原性鳥インフルエンザ等の問題に対して、リスク回避（もしくは軽減）を図ることのできる担当部署として社会的ニーズは大きく、事業実績においても成果を上げている。
3. 地域の産業ニーズに応え、地域の産業シーズを生かした研究成果も多く、他機関との共同研究にも積極的と判断できる。
4. 初乳を利用した哺育技術、ワコムIT等との共同開発による分娩・発情検知システムや地域未・低利用資源を活用したTMR飼料の開発は今後の有望技術と思われるので、今後、現場活用を図るために行政・普及と一体になった普及指導を期待したい
5. 和牛・乳牛における受精卵の普及推進は貢献度が高い上、結果においても見るべき物がある。地どり、豚液状精液なども定着した成果となっている。しかし、他の研究については今ひとつ普及推進について課題を残しているのではないかと。広く貢献するに至っていない感がある。
6. 研究成果の事業化の部分でやや不満が残る。岡山県の試験研究機関として、ローカル色の強い取り組みを期待したい。
7. 研究成果によっては普及面積・戸数などわかるものがあれば、記載したほうが成果としてわかりやすい。

5 技術相談・指導、普及業務、行政検査、依頼試験等の実施状況	非常に優れている 1人	優れている 2人	妥当 4人	見直しが必要 0人	全面的見直しが必要 0人
--------------------------------	----------------	-------------	----------	--------------	-----------------

助言、指摘事項等

1. 技術相談・指導などの件数は、ここ2～3年増えてきており、農家段階への助言指導も活発に行っていることから、地域の産業に必要とされている様子が伺われる。
2. 依頼試験については受け入れに当たり受託判定会議を持っていることが評価できる。
3. 人材育成とも関連するが、技術相談・指導は生産現場との接点であり、生産現場のニーズを把握するにも最適の場であり、試験研究設計にも活かしてもらいたい。
4. 昨今、農政のひとつの重点方向として、6次産業化が走り出しており、畜産物を核とした岡山ブランド商品の開発支援も重要となってくるので、関連行政部局などを通じて、県内の食品加工業者や市町村の地域おこし団体などに向けた情報発信と技術相談も重要となる。
5. 技術の普及が進めば多大な対応が必要とされる場合も考えられ、関係指導機関への周知により、技術・情報を共有する連携体制の構築が求められる。
6. 成果の普及は普及機関に依存することが大きく、講演、研修の事例が示されているが、実際の連携はどのようにされているのか。普及（もしくは行政）からのフィードバックはあるのか。
7. 外部評価委員会における説明では、地域産業の育成・発展に堅実な取り組みをしていることが十分アピールされていなかったように思われる。公設試の存在意義に関わることであり、技術相談や技術指導をもっと評価するようにしていただきたい。

6 人材育成	非常に優れている 0人	優れている 1人	妥当 5人	見直しが必要 1人	全面的見直しが必要 0人
--------	----------------	-------------	----------	--------------	-----------------

助言、指摘事項等

1. 研修会や研究会に若手職員を派遣し、スキルアップを図るよう心がけており、人材育成に積極的であると判断できる。
2. 畜産農家の現状、畜産農家のニーズを理解し、コスト意識のある研究者を養成していただきたい。セミナー等への参加も必要ではあるが、研究者を育てる一番の場所は、農家の現場である。積極的に現場に派遣し、現場に強い研究者を養成していただきたい。
3. 研究所である限り、研究員のスキルアップとしての研修の必要性は認める。他の教育機関や民間の研究等への連携も重要と考えるが、畜産業の中でもより現場に近いニーズや課題にも取り組まねばならない。課題に対して基本的な姿勢を確かめながら事業化していただきたい。
4. シニア研究職員に対しても、横断型の研究体制を生かした研究推進をより実効的なものとするための勉強会を持つことが今の時期必要。例えば、厳しい競争条件下にさらされている民間企業の研究開発の進め方を参考とするために、研究開発部門の民間講師を招聘して、研究管理部門の職員や研究リーダーを対象とした勉強会を実施してはどうか。
5. 研究能力のみならず、技術相談や技術指導の能力を高める目的で、研究所職員以外の人材育成も考えていただきたい。
6. 近年、農業関係の試験場では研究員の補充も不十分であるが、岡山県はどうなのか。なにか問題、対策はあるのか。

7 他機関との連携	非常に優れている 1人	優れている 2人	妥当 3人	見直しが必要 1人	全面的見直しが必要 0人
-----------	----------------	-------------	----------	--------------	-----------------

助言、指摘事項等

1. 産官学の多くの機関と十分なネットワークを構築しており、連携研究や共同研究による成果が見られるが、成果の普及、事業化において、連携が不十分である。
2. 今後一層進め、循環型や6次化産業へもアドバイスを期待する。
3. 大学、民間企業等との積極的な連携による技術開発が進められ、成果を挙げている点が特筆される。ただ、開発された技術が実際に現場で活用され、畜産振興に結びついていくために、なお一層の工夫が必要と思われる。とりわけ、最重点課題については、予め、目標の改善効果と技術普及率の達成目標まで見据えて、行政や普及組織と一体となった工程表を作成し、研究と普及の一体的な推進をより一層図っていくことも必要かと思われる。

8 県民への情報発信	非常に優れている 0人	優れている 1人	妥当 6人	見直しが必要 0人	全面的見直しが必要 0人
------------	----------------	-------------	----------	--------------	-----------------

助言、指摘事項等

1. 前回と比較して情報発信の取組は改善されたと評価する。
2. インターネットの利用だけでなく、インターンシップの受け入れ等も行っており、情報発信には積極的と評価できる。
3. 昨年の学会発表が2件と少ないように思う。震災で学会が中止になったことの影響か。
4. 昨年度の実績をみると、畜産農家はもとより、学生や子供まで含めて多様な形で活発に情報発信をしていることがうかがえる。
昨今、農政の方向として、6次産業化がひとつの重要施策となっており、畜産物の商品化にむけた取り組みニーズもさらに高まりつつある。県内の畜産物を核とした6次産業化を支援していくために、特に、重点課題である畜産物の付加価値技術の成果については、関連行政部局などを通じて、県内の畜産物食品業者や小売業者などに向けた情報発信を行い、6次産業化のシーズを提供していくことも必要と思われる。
5. 家畜防疫上、県民を直接受け入れるのは困難な状況の中、視察の受入実施には大変な努力があったと思われる。もとより、イベントなどの必要性は薄い考えるが、情報の発信としては機会をとらえ更に積極的にするべきではないか。

9 前回指摘事項への対応	非常に優れている 0人	優れている 2人	妥当 5人	見直しが必要 0人	全面的見直しが必要 0人
--------------	----------------	-------------	----------	--------------	-----------------

助言、指摘事項等

1. 前回の指摘事項については、概ね対応がなされている。
2. 組織体制の見直しや情報発信の点での改善が進められている。

総合評価	非常に優れている 0人	優れている 4人	妥当 3人	見直しが必要 0人	全面的見直しが必要 0人
------	----------------	-------------	----------	--------------	-----------------

助言、指摘事項等

1. 機関全体の活動について、不十分と思われるところはない。組織体制の見直しもあり、構成員の業務は増大していると予想されるが、これまで以上の実績があがっていると判断できる。
地域の産業を維持・発展させることが公設試の責務なので、技術相談や技術指導など、地道で継続的な取り組みあるいは業務をもっと高く評価すべきと考える。消費者の視点に立った評価は重要だが、生産者から評価されることはそれに劣らず重要と思われる。
2. 基本的に他機関との連携・情報収集に課題が残り、成果の普及・事業化に関して不満がある。
一方で、従前は試験研究における経営的なアプローチは弱かったが、生産性の向上による経済効果やコスト低減効果を測定するなど経営意識の高まりを感じる。
3. 限られた予算と要員の中で、多くの優れた成果を出していると思う。大幅な組織改編がなされているが、分野横断的な試験研究推進の弾力化と効率化をより実効的なものとするためには、異なる専門分野の研究者が相互に相手の研究を理解し、同一のプロジェクト目的の達成に向かって日常不断に意思疎通を図ることが重要となる。また、課題の進捗状況により、隘路となっている課題を総合センター内で弾力的に分担しあう関係を構築することも重要と思うので、組織研究に対する個人のモチベーション意識の向上を図るためにも、業績評価および人事評価などの面でグループ研究への貢献度をより重視する方向に変えていく必要がある。
4. 財源の縮小する中で、施設・機械の更新の行いつつ研究を維持するには相当な努力が今後とも要求される。
個別で極めて専門的な課題研究も必要であることは認めるが、より一般的な普及を目的とし関係者により理解される課題や生産現場である農家経営の一助となる支援的な側面も求められているのではと考える。